

平成 23 年度に実施した選択的評価事項に係る
評価に関する検証結果報告書（大学）

平成 25 年 1 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、選択的評価事項に係る評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、選択的評価事項に係る評価において、毎年度、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行うことにより、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握し、次年度以降に実施する選択的評価事項に係る評価に反映させている。

平成 23 年度実施の選択的評価事項に係る評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、より透明性の高い評価とするため、新たに平成 23 年度実施の選択的評価事項に係る評価（4 大学）に関する調査及び検証結果を取りまとめることとした。

目 次

はじめに

I	機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要	1
II	平成 23 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証	
1.	検証の実施方法	4
2.	項目別の検証	
(1)	受審理由について	5
(2)	選択的評価事項及び観点について	6
(3)	説明会・研修会について	8
(4)	自己評価書について	9
(5)	書面調査・訪問調査について	10
(6)	評価結果（評価報告書）について	12
(7)	評価の効果・影響について	14
(8)	評価の作業量等について	16
(9)	設けることが望ましい選択的評価事項について	17
(10)	評価についての全般的な意見・感想について	18
3.	総括	19

参考資料

- 1 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果
（選択式回答）【対象校】
- 2 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果
（選択式回答）【評価担当者】
- 3 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果
（自由記述）【対象校】
- 4 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果

(自由記述)【評価担当者】

- 5 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】
(大学用)
- 6 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】
(大学用)

I 機構が実施した選択的評価事項に係る評価の概要

平成 23 年度に実施した選択的評価事項に係る評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した大学の選択的評価事項に係る評価の概要について触れておく。

機構の実施する認証評価は、大学の正規課程における教育活動を中心として大学の教育研究活動等の総合的な状況を評価するものであるが、大学にとって研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに大学は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、実際にそのような活動が広く行われている。

機構は、大学評価基準とは異なる側面から大学の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択的評価事項 A）と「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」（選択的評価事項 B）の二つの選択的評価事項を設定し、大学の希望に基づいて、これらの事項に関わる活動等について評価を行っている。

選択的評価事項は、まず、平成 17 年度に選択的評価基準として「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始し、「研究活動の状況」については、評価体制が整備されるのを待って、翌平成 18 年度より開始した。なお、平成 19 年度実施分より選択的評価基準から選択的評価事項へ名称を改めている。

平成 23 年度実施の選択的評価事項に係る評価は、二つの評価を開始してから 6 年目の実施に当たる。

1. 目的

選択的評価事項に係る評価は、各大学の個性の伸長に資するよう、以下のことを目的として行った。

- (1) 評価結果を各大学にフィードバックすることにより、各大学の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (2) 大学の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立大学の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる大学機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象大学の状況に応じた評価部会を編成し、評価を実施した。

評価部会には、各大学の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象大学の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

3. 方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

(1) 大学における自己評価

各大学は、『自己評価実施要項』に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成した。

(2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象大学から提出された自己評価書（大学の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象大学の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 選択的評価事項ごとに、自己評価の状況を踏まえ、その評価事項に関わる各大学が有する目的の達成状況等について評価を実施した。
なお、選択的評価事項は、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。目的の達成状況等については、その個々の内容ごとに行うのではなく、基本的な観点の分析状況を総合した上で、選択的評価事項ごとに行った。
- ④ 選択的評価事項ごとに、取組が優れていると判断される場合や、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。
- ⑤ 評価結果については、「目的の達成状況が非常に優れている」、「目的の達成状況が良好である」、「目的の達成状況がおおむね良好である」、「目的の達成状況が不十分である」の4段階で記述し、公表した。

4. スケジュール

(1) 平成22年5月に、国・公・私立大学の関係者に対し、評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。

(2) 平成22年8月から9月にかけて申請を受け付け、最終的に以下の4大学の評価を実施することとなった。

- 公立大学（3大学）
群馬県立県民健康科学大学（B）、愛知県立大学（A）、県立広島大学（B）
- 私立大学（1大学）

聖徳大学（B）

- (3) 平成 23 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。
- (4) 平成 23 年 6 月末に、対象大学から自己評価書の提出を受けた。
- (5) 対象大学からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

23 年 7 月	書面調査の実施
9 月	評価部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～11 月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象大学の状況を調査）
12 月	評価部会の開催（評価結果（原案）の作成）

- (6) これらの調査結果を踏まえ、平成 24 年 1 月に評価委員会で評価結果（案）を決定した。
- (7) 評価結果（案）に対する意見の申立ての機会を設け、平成 24 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

5. 評価結果

平成 23 年度に選択的評価事項に係る評価を実施した大学の評価結果は、次のとおりとなった。

- 選択的評価事項 A
 - ・ 目的の達成状況が良好である：1 大学
- 選択的評価事項 B
 - ・ 目的の達成状況が良好である：3 大学

機構はこの評価結果を平成 24 年 3 月 29 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 選択的評価事項は機構ウェブサイトを参照のこと。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/index.html

Ⅱ 平成 23 年度実施の選択的評価事項に係る評価に関する検証

1. 検証の実施方法

(1) アンケート調査の実施

平成 23 年度実施の選択的評価事項に係る評価の対象大学（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査内容から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 受審理由について
- (2) 選択的評価事項及び観点について
- (3) 説明会・研修会について
- (4) 自己評価書について
- (5) 書面調査・訪問調査について
- (6) 評価結果（評価報告書）について
- (7) 評価の効果・影響について
- (8) 評価の作業量等について
- (9) 設けることが望ましい選択的評価事項について
- (10) 評価についての全般的な意見・感想について

※アンケート調査に係る補足事項

1. アンケート用紙配付日程

	平成 23 年度
対象校	平成 24 年 3 月 30 日
評価担当者	平成 23 年 12 月 26 日

2. 平成 23 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	4 校中 4 校	100%
評価担当者	13 名中 7 名	54%

2. 項目別の検証

(1) 受審理由について

今回、選択的評価事項に係る評価を受審した理由として、対象校から、主に次のような回答があった。

選択的評価事項に係る評価の目的である「改善の促進」「社会からの理解と支持」に関連する回答が寄せられているほか、「第三者による研究活動の評価が実施できると考えたため」のように大学の取組に対する客観的な評価を確認することを受審理由として挙げる大学が見られた。

(2) 選択的評価事項及び観点について

機構が選択的評価事項を設けたことは適切であったか、また、選択的評価事項のテーマ、評価方法、基本的な観点の構成や内容が適切であったかどうかについて検証を行った。

①評価の目的等との関係について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「選択的評価事項を設けたことは適切であった」(機関1-①、評1-①^{*})か質問したところ、対象校では、「強くそう思う」が2校、「そう思う」が2校、評価担当者では、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が4名、「どちらとも言えない」が1名であった。

また、「「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった」(機関1-②、評1-②)かとの質問については、対象校では、選択的評価事項A「研究活動の状況」(以降、「評価事項A」)について、「そう思う」が1校、選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」(以降、「評価事項B」)について、「強くそう思う」が2校、「そう思う」が1校であった。一方、評価担当者では、評価事項Aについて、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bについて、「強くそう思う」が2名、「そう思う」が5名であった。

次に、「対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった」(機関1-③、評1-③)かとの質問については、対象校では、評価事項Aについて、「そう思う」が1校、評価事項Bについて、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が2校であった。評価担当者では、評価事項Aについて、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bについて、「強くそう思う」が3名、「そう思う」が3名、「どちらとも言えない」が1名であった。

②基本的な観点の構成や内容について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」(機関1-④、評1-④)か、「評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」(機関1-⑤、評1-⑤)か質問したところ、対象校では、「改善の促進」に関しては、評価事項Aについて、「どちらとも言えない」が1校、評価事項Bについて、「強くそう思う」が1校、「そう

^{*}「機関〇」…参考資料「選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】」における設問番号に対応

「評〇」…参考資料「選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】」における設問番号に対応

思う」が2校、「社会からの理解と支持」に関しては、評価事項Aについて、「どちらとも言えない」が1校、評価事項Bについて、「強くそう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校であった。一方、評価担当者では、「改善の促進」に関しては、評価事項Aについて、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bについて、「強くそう思う」が2名、「そう思う」が4名、「どちらとも言えない」が1名、「社会からの理解と支持」に関しては、評価事項Aについて、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bについて、「強くそう思う」が2名、「そう思う」が4名、「どちらとも言えない」が1名であった。

③具体的評価事項及び観点について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価しにくい評価事項又は観点があった」（機関1-⑥）か質問したところ、評価事項Aでは、「ない」が1校、評価事項Bでは、「ない」が3校であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「評価しにくい評価事項又は観点があった」（評1-⑥）か質問したところ、評価事項Aでは、回答者2名とも「ない」、評価事項Bでは、「ある」が1名、「ない」が6名であった。

次に、対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点があった」（機関1-⑦、評1-⑦）か質問したところ、対象校では、評価事項Aについて、「ない」が1校、評価事項Bについて、3校とも「ない」、評価担当者では、評価事項Aについて、回答者2名とも「ない」、評価事項Bについて、「ある」が2名、「ない」が5名であった。

③評価と課題

選択的評価事項に係る評価については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことや対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であると考えられる。また、設定された選択的評価事項のテーマ（A・B）は適切なものであると考えられる。

基本的な観点の構成や内容については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、概ね適切であると考えられるものの、自由記述において、評価事項Bを「社会貢献」として、評価対象を大きく拡大すべきという意見も寄せられている。機構においては、これまでに寄せられた意見等を踏まえて、平成24年度実施分から評価事項Bを「地域貢献活動の状況」に改め、『自己評価実施要項』に評価事項B全般に係る留意点としてPDCAを意識した記載とするよう追記したり、「分析する際の留意点及び根拠資料・データ等例」として、観点に関連する活動や期待される根拠資料等を例示するなどの取組を行っている。

(3) 説明会・研修会について

大学の関係者を対象に実施している説明会や、機構の評価を希望する大学の自己評価担当者等を対象に実施している研修会について、その適切性の検証を行った。また、評価担当者を対象に実施している研修の内容の適切性について検証を行った。

① 選択的評価事項に係る評価に関する説明会・自己評価担当者等に対する研修について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、説明会・研修会等は適切であった」（機関4-①）か質問したところ、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校であった。

② 評価担当者に対する研修について

評価担当者に対するアンケート調査において、「総じて、研修は適切であった」（評3-①）か質問したところ、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が3名、「どちらとも言えない」が2名であった。

③ 評価と課題

選択的評価事項に係る評価に関する説明会・自己評価担当者等に対する研修については、対象校から肯定的に評価されており、概ね適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修についても、評価担当者から肯定的に評価されており、概ね適切であると考えられる。

(4) 自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が理解しやすかったか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

①自己評価書の記述について

評価担当者に対するアンケート調査において、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」(評2-(1)-①)か質問したところ、評価事項Aでは、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が5名、「どちらとも言えない」が1名であった。

②自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」(機関2-(1)-①)か質問したところ、評価事項Aでは、「迷っていない」が1校、評価事項Bでは、「迷った」が1校、「迷っていない」が2校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」(評2-(1)-②)か質問したところ、評価事項Aでは、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が4名、「どちらとも言えない」が1名、であった。

③評価と課題

自己評価書の理解しやすさについては、評価担当者から肯定的に評価されているものの、自由記述において、対象校から、自己評価書の作成に当たって、関係事業数が多かったことから文字数の制限が厳しいと感じた、との意見が寄せられており、機構では平成24年度実施分から評価事項Aに係る自己評価書の字数制限(1学部・研究科の場合)を全体で7,000字から10,000字へと緩和することとしている。また、「正規課程の学生以外に対する教育サービス」としての対象事業の峻別にやや戸惑いがあったとの意見も寄せられており、平成24年度実施分から『自己評価実施要項』に「分析する際の留意点及び根拠資料・データ等例」として、観点に関連する活動や期待される根拠資料等を例示する等の取組を行っている。

また、自己評価書の添付資料については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、概ね適切な根拠資料が添付されていると考えられる。

(5) 書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、事実誤認の有無を確認するために通知する「書面調査による分析状況」の内容が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

①書面調査による分析について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」（機関2-(2)-①)か質問したところ、評価事項Aでは、「そう思う」が1校、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が1校「どちらとも言えない」が1校であった。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、書面調査の分析内容を記入するために「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評2-(2)-①)か質問したところ、評価事項Aでは、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が4名、「どちらとも言えない」が2名であった。また、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった」（評2-(2)-②)か質問したところ、評価事項Aでは、「そう思う」が1名、「どちらとも言えない」が1名、評価事項Bでは、「そう思う」が1名、「どちらとも言えない」が4名、「そう思わない」が1名、「全くそう思わない」が1名であった。

②訪問調査時の確認事項について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」（機関2-(2)-②)か質問したところ、評価事項Aでは、「そう思う」が1校、評価事項Bでは、「そう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」（評2-(3)-①)か質問したところ、評価事項Aでは、「そう思う」が1名、「どちらとも言えない」が1名、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が3名、「どちらとも言えない」が3名であった。

③評価と課題

書面調査による分析については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されて

おり、訪問調査前に提示された「書面調査による分析状況」の内容や、機構が示した書面調査票等の様式は概ね適切であると考えられる。なお、書面調査に際して、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかったとの評価担当者の意見は、必ずしも多くはないが、今後も要望を把握していくことが求められる。

また、訪問調査時の確認事項について、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校からの回答内容は概ね適切であると考えられる。

(6) 評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容が適切なものであったかについて検証した。また、書面調査、訪問調査の内容が評価結果に十分反映されたかなどについて検証を行った。

① 評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった」（機関5-⑨）か質問したところ、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が3校であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった」（機関5-①）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった」（機関5-②）か質問したところ、「改善の促進」については、評価事項Aでは、「そう思う」が1校、評価事項Bでは、「そう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校、「社会からの理解と支持」については、評価事項Aでは、「どちらとも言えない」が1校、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が2校であった。

また、「評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」（機関5-⑥）か質問したところ、評価事項Aでは、「どちらとも言えない」が1校、評価事項Bでは、「そう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった」（機関5-③）か質問したところ、評価事項Aでは、「そう思う」が1校、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が2校、「評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった」（機関5-④）かとの質問については、評価事項Aでは、「そう思う」が1校、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が2校であった。「評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった」（機関5-⑤）か質問したところ、評価事項Aでは、「そう思う」が1校、評価事項Bでは、3校とも「そう思う」であった。

さらに、「評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった」（機関5-⑦）か質問したところ、評価事項Aでは、「そう思う」が1校、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が2校、「評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった」（機関5-⑧）か質問したところ、「強くそう思う」が1校、「そう思う」が2校「どちらとも言えない」が1校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評2-(4)-①）か質問したところ、評価事項Aでは、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bでは、回答者7名とも「そう思う」であった。

②意見の申立てについて

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった」（機関2-（3）-①）か質問したところ、「そう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校、「全くそう思わない」が1校であった。

③評価と課題

評価報告書の内容については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、教育研究活動等の「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的や新たな視点の獲得に照らして概ね適切であると考えられる。また、評価方法、対象校の目的、実態、規模等に照らして適切であり、構成及び内容が分かりやすく、評価担当者の書面調査、訪問調査の内容が評価結果に適切に反映され、総じて、機構による評価報告書の内容は適切なものであると考えられる。

意見の申立てについては、対象校から肯定的に評価されており、総じて、実施方法等は概ね適切であると考えられる。

(7) 評価の効果・影響について

今回の評価のために自己評価を実施したことや評価結果を受けたこと、対象校に対して評価を実施したことがどのような効果・影響を与えたか、また評価結果をどのように活用しているかについて検証を行った。

①自己評価を行ったことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価を受けるに当たって自己評価を行ったことによる効果・影響について、「貴校の教育研究活動等の改善を促進した」（機関6-(1)-①）か質問したところ、評価事項Aでは、「どちらとも言えない」が1校、評価事項Bでは、「そう思う」が1校、「どちらとも言えない」が2校であった。

②評価結果を受けたことによる効果・影響について

評価結果を受けて今後どのような効果・影響があると思うかについて、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の教育研究活動等の改善を促進する」（機関6-(2)-①）かと質問したところ、評価事項Aでは、「どちらとも言えない」が1校、評価事項Bでは、「そう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校、「貴校の学生や社会からの理解と支持が得られる」（機関6-(2)-②）かとの質問については、評価事項Aでは、「どちらとも言えない」が1校、評価事項Bでは、「そう思う」が2校、「どちらとも言えない」が1校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う」（評5-①）か質問したところ、評価事項Aでは、回答者2名とも「そう思う」、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が5名、「どちらとも言えない」が1名、「今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う」（評5-②）かとの質問については、評価事項Aでは、「そう思う」が1名、「どちらとも言えない」が1名、評価事項Bでは、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が3名、「どちらとも言えない」が3名であった。

③評価結果の活用について

対象校における今後の評価結果の活用予定について質問（複数回答可）したところ、「貴校の広報誌に評価結果を掲載する」が2校、「貴校のウェブサイトで評価結果を公表する」が4校、「学生募集の際に用いる」が1校であった。

また、機構の評価を受けたことを契機に、実施を予定している（または実施済みの）変更・改善の取組として、対象校から次の事例が挙げられた。なお、文末【 】

内の数字は、変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度を対象校が示したものである。

【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（評価事項A）「研究活動の状況」

- ・（課題）科学研究費補助金の申請件数や獲得件数は増加傾向にあるが、申請率の更なる向上が期待される。

（変更・改善）年度計画で科学研究費補助金の申請率の現状について原因分析を行い、適切な対応を図ることとした。【4】

（評価事項B）「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」

- ・（課題）高大連携事業に係る公開講座（授業）について、受講者対象の事後評価が統一的に行われていなかった。

（変更・改善）統一様式によるアンケート調査を平成23年度から実施した。【3】

- ・（課題）生涯学習ニーズ対応の公開講座について、受講者対象の事後評価方法がキャンパスごとに異なっていた。

（変更・改善）統一様式による調査に速やかに移行することを目指し、調査項目・選択肢の設定等に関する調整を行っている。【3】

④評価と課題

対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響について、対象校の教育研究活動等の改善を促進したといった効果・影響については、対象校からは肯定的な回答が必ずしも多くなく、自由記述において、効果・影響に関する調査の項目の中には現時点で判断できないものがあり、半年～1年後に実施した方がよい、との意見も寄せられており、評価直後の効果・影響の他に、長期的な効果・影響についても把握していく必要があると考えられる。

対象校が評価結果を受けたことによる効果・影響については、評価担当者からは概ね肯定的に評価されているものの、対象校からは肯定的な回答が必ずしも多くなく、評価直後の効果・影響の他に、長期的な効果・影響についても把握していく必要があると考えられる。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果をもとに実際に教育研究活動等の改善・向上に取り組んでいることが分かる。今後も引き続き、機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

(8) 評価の作業量等について

今回の評価の実施に係る作業量や作業期間がどうであったかを対象校、評価担当者の双方について検証を行った。

① 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった」(機関3-①)か質問したところ、「そう思う」が3校、「どちらとも言えない」が1校であった。

評価担当者に対するアンケート調査において、「総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった」(評4-①)か質問したところ、「強くそう思う」が1名、「そう思う」が3名、「どちらとも言えない」が2名、「全くそう思わない」が1名であった。

② 評価と課題

評価に費やした作業量及び作業期間については、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、総じて、評価の作業量、スケジュール等は概ね適切であると考えられる。

(9) 設けることが望ましい選択的評価事項について

現在の2つの選択的評価事項のほかに、新たに設けることが望ましい評価事項があったかを対象校、評価担当者の双方について検証を行った。

①新たに設けることが望ましい選択的評価事項について

対象校に対するアンケート調査において、「現在の選択的評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択的評価事項があった」と質問したところ、「あった」が1校、「なかった」が3校であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「現在の選択的評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択的評価事項があった」と質問したところ、「あった」が5名、「なかった」が2名であった。

②評価と課題

選択的評価事項の新設については、対象校及び評価担当者から新たな評価事項を望む回答が寄せられており、自由記述において、新たに設けることが望ましい選択的評価事項として、「学生の国際交流など、グローバル化への対応」等の意見が寄せられている。機構では、平成25年度から評価事項C「教育の国際化の状況」を設けることとしている。また、地域貢献等も大学の第3の責務であり、評価の対象とすべきという意見も寄せられているが、機構では、平成24年度実施分から評価事項Bを「地域貢献活動の状況」と改め、評価対象の範囲を拡大させている。

(10) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(9)に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・対象校からの意見・感想について

今後の選択的評価事項に係る評価に関して、「大学全体とともに各教員の研究活動活性化に結びつくような項目があるとよい」といった意見が寄せられている。

・評価担当者からの意見・感想について

今後の選択的評価事項に係る評価に関して、「S、A、Bのほかに、中間的な評価がほしい」「一般教職員や学生が大学の方針や予算に縛られず、地域住民の中に入って行って地域活動を行っているケースが公立大学にはたくさんある。この辺を評価でどのように位置づけるかが課題である」といった意見が寄せられている。

3. 総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な10の事項、「(1) 受審理由について」「(2) 選択的評価事項及び観点について」「(3) 説明会・研修会について」「(4) 自己評価書について」「(5) 書面調査・訪問調査について」「(6) 評価結果(評価報告書)について」「(7) 評価の効果・影響について」「(8) 評価の作業量等について」「(9) 設けることが望ましい選択的評価事項について」「(10) 評価についての全般的な意見・感想について」を整理・分類し、分析・評価した結果をまとめています。以下にその概要を述べ総括する。

(1) 受審理由について

選択的評価事項に係る評価を受審した理由として、選択的評価事項に係る評価の目的である「改善の促進」「社会からの理解と支持」のほかに、「第三者による研究活動の評価が実施できると考えたため」等が寄せられている。

(2) 選択的評価事項及び観点について

認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたこと、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法はそれぞれ適切なものと考えられる。また、設定された選択的評価事項のテーマ(A・B)は適切なものと考えられる。

また、基本的な観点の構成や内容についても、概ね適切であると考えられる。なお、更なる改善のために、機構では、これまでに寄せられた意見等を踏まえて、平成24年度実施分から、評価事項Bを「地域貢献活動の状況」に改め、『自己評価実施要項』に評価事項B全般に係る留意点としてPDCAを意識した記載とするよう追記したり、観点に関連する活動や期待される根拠資料等を例示するなどの取組を行っている。

(3) 説明会・研修会について

選択的評価事項に係る評価に関する説明会・自己評価担当者等に対する研修及び評価担当者に対する研修は概ね適切であると考えられる。

(4) 自己評価書について

自己評価書の理解しやすさについては、評価担当者から肯定的に評価されている。なお、機構では、これまでに寄せられた意見等を踏まえて、平成24年度実施分から、評価事項Aに係る自己評価書の字数制限を緩和することとしている。

また、自己評価書の添付資料については、概ね適切であると考えられる。

(5) 書面調査・訪問調査について

書面調査による分析については、「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式は概ね適切であると考えられる。また、客観的データ等の参考となる情報が必要との意見は必ずしも多くはないが、今後も要望を把握していくことが求められる。

また、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する回答内容は概ね適切であると考えられる。

(6) 評価結果（評価報告書）について

評価報告書の内容については、評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして概ね適切であるほか、その内容や構成についても適切であり、教育研究活動等に関して新たな視点が得られるなど、総じて適切なものと考えられる。

また、意見の申立ての実施方法等は概ね適切であると考えられる。

(7) 評価の効果・影響について

対象校が自己評価を行ったことにより改善を促進したかについては、対象校からは有効であるとする回答が必ずしも多くなく、今後、長期的な効果・影響についても把握したうえで検証を実施していく必要がある。

また、対象校が評価結果を受けたことによる効果・影響についても、対象校からは有効であるとする回答が必ずしも多くなく、今後、長期的な効果・影響についても把握したうえで検証を実施していく必要がある。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果をもとに改善・向上に取り組んでいることが分かる。今後も引き続き機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

(8) 評価の作業量等について

評価に費やした作業量及び作業期間については、概ね適切であると考えられる。

(9) 設けることが望ましい選択的評価事項について

選択的評価事項の新設については、対象校及び評価担当者から新たな評価事項を望む回答が寄せられている。機構では、平成25年度から評価事項C「教育の国際化の状況」を設けることとしているほか、平成24年度実施分から評価事項Bを「地域貢献活動の状況」と改め、評価対象の範囲を拡大している。

(10) 評価についての全般的な意見・感想について

評価についての全般的な意見・感想については、対象校からは新たな項目の設定を望む意見等が寄せられた。

一方、評価担当者からは、評価方法や評価の位置付けについての意見等が寄せられた。

今回の検証によって、対象校、評価担当者双方から機構の行う現行の選択的評価事項に係る評価に対する意見・要望も見られたことから、更なる改善の必要性も示唆された。

選択的評価事項に係る評価の改善については、対象校が評価の経験を重ねることにより、自己評価書作成等の効率化が図られることが期待されるが、機構においても、寄せられた意見等を踏まえて、選択的評価事項に係る評価の趣旨の更なる周知や実施方法等に関する合理化、効率化の取組等について検討していくことが必要であると考えられる。

参 考 资 料

参考資料 目次

- 1 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
- 2 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
- 3 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
- 4 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
- 5 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（大学用）
- 6 選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】（大学用）

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の大学や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【対象校】
【大学】

機関-	① 今回受けた選択的評価事項	A	1
		B	3

【2:あった 1:なかった】

機関-	③ 現在の選択的評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択的評価事項があった	2	1	計	平均	未回答
		1	3	4	1.25	0
		25%	75%	100%		

1. 選択的評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関1-	① 選択的評価事項を設けたことは適切であった	2	2	0	0	0	4	4.5	0	
		50%	50%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	② 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	0	1	0	0	0	1	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
B		2	1	0	0	0	3	4.67	0	
		67%	33%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	A	0	1	0	0	0	1	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
B		1	2	0	0	0	3	4.33	0	
		33%	67%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	④ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	A	0	0	1	0	0	1	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
B		1	2	0	0	0	3	4.33	0	
		33%	67%	0%	0%	0%	100%			
機関1-	⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	A	0	0	1	0	0	1	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
B		2	0	1	0	0	3	4.33	0	
		67%	0%	33%	0%	0%	100%			

【2:あった 1:なかった】

		2	1	計	平均	未回答	
機関1-	⑥ 自己評価しにくい評価事項又は観点があった	A	0	1	1	1	0
			0%	100%	100%		
B		0	3	3	1	0	
		0%	100%	100%			
機関1-	⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点があった	A	0	1	1	1	0
			0%	100%	100%		
B		0	3	3	1	0	
		0%	100%	100%			

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【2:迷った 1:迷っていない】

		2	1	計	平均	未回答	
機関2-(1)-	① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	A	0	1	1	1	0
			0%	100%	100%		
B		1	2	3	1.33	0	
		33%	67%	100%			

(2) 訪問調査等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関2-(2)-	① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	A	0	1	0	0	0	1	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	1	1	1	0	0	3	4	0
			33%	33%	33%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-	② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	A	0	1	0	0	0	1	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		

(3) 意見の申立てについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)-	① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった	0	2	1	0	1	4	3	0
		0%	50%	25%	0%	25%	100%		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-	① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった	0	3	1	0	0	4	3.75	0
		0%	75%	25%	0%	0%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 総じて、説明会・研修会等は適切であった	1	2	1	0	0	4	4	0
		25%	50%	25%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関5-	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	A	0	1	0	0	0	1	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった	B	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関5-	③ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	A	0	0	1	0	0	1	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関5-	④ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	B	1	2	0	0	0	3	4.33	0
			33%	67%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	A	0	1	0	0	0	1	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑥ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	B	0	3	0	0	0	3	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑦ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	A	0	0	1	0	0	1	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
機関5-	⑧ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった	B	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関5-	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	A	0	1	0	0	0	1	4	0
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
機関5-	⑧ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった	B	1	2	1	0	0	4	4	0
			25%	50%	25%	0%	0%	100%		
機関5-	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	A	1	3	0	0	0	4	4.25	0
			25%	75%	0%	0%	0%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(1)-	① 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	A	0	0	1	0	0	1	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
		B	0	1	2	0	0	3	3.33	0
			0%	33%	67%	0%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
機関6-(2)-	① 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	A	0	0	1	0	0	1	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
		B	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		
機関6-(2)-	② 対象校の学生や社会からの理解と支持が得られる	A	0	0	1	0	0	1	3	0
			0%	0%	100%	0%	0%	100%		
		B	0	2	1	0	0	3	3.67	0
			0%	67%	33%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について、

(省略)

(2) 対象校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5
2	4	0	1	0

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答)【評価担当者】
【大学】

評1-	① 今回、評価を担当された選択的評価事項について	A	2
		B	7

【2:あった 1:なかった】

評1-		2	1	計	平均	未回答
評1-	② 現在の選択的評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択的評価事項があった	5	2	7	1.71	1
		71%	29%	100%		

1. 選択的評価事項及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

評1-		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評1-	① 選択的評価事項を設けたことは適切であった	1	4	1	0	0	6	4	2	
		17%	67%	17%	0%	0%	100%			
評1-	② 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	A	0	2	0	0	0	2	4	1
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評1-	③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	B	2	5	0	0	0	7	4.29	1
			29%	71%	0%	0%	0%	100%		
評1-	④ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	A	0	2	0	0	0	2	4	1
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評1-	⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	B	3	3	1	0	0	7	4.29	1
			43%	43%	14%	0%	0%	100%		
評1-	⑥ 評価しにくい評価事項又は観点がなかった	A	0	2	0	0	0	2	4	1
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評1-	⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点がなかった	B	2	4	1	0	0	7	4.14	1
			29%	57%	14%	0%	0%	100%		

【2:あった 1:なかった】

評1-		2	1	計	平均	未回答	
評1-	⑥ 評価しにくい評価事項又は観点がなかった	0	2	2	1	1	
		0%	100%	100%			
評1-	⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点がなかった	B	1	6	7	1.14	1
			14%	86%	100%		
評1-	⑧ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点がなかった	A	0	2	2	1	1
			0%	100%	100%		
評1-	⑨ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点がなかった	B	2	5	7	1.29	1
			29%	71%	100%		

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

評2-(1)-		5	4	3	2	1	計	平均	未回答	
評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	A	0	2	0	0	0	2	4	1
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評2-(1)-	② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	B	1	5	1	0	0	7	4	1
			14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評2-(1)-	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	A	0	2	0	0	0	2	4	1
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
評2-(1)-	④ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	B	1	4	1	0	0	6	4	2
			17%	67%	17%	0%	0%	100%		

(2) 書面調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(2)-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	A	0	2	0	0	0	2
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	1	4	2	0	0	7	3.86	1
			14%	57%	29%	0%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	A	0	1	1	0	0	2	3.5	1
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		B	0	1	4	1	1	7	2.71	1
			0%	14%	57%	14%	14%	100%		

(3) 訪問調査について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(3)-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	A	0	1	1	0	0	2
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		B	1	3	3	0	0	7	3.71	1
			14%	43%	43%	0%	0%	100%		

(4) 評価結果について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評2-(4)-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	A	0	2	0	0	0	2
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	0	7	0	0	0	7	4	1
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		

3. 研修について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評3-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 総じて、研修は適切であった		1	3	2	0	0	6
			17%	50%	33%	0%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評4-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった		1	3	2	0	1	7
			14%	43%	29%	0%	14%	100%		

5. 評価全般について

【5: 強くそう思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

評5-			5	4	3	2	1	計	平均	未回答
			① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	A	0	2	0	0	0	2
			0%	100%	0%	0%	0%	100%		
		B	1	5	1	0	0	7	4	1
			14%	71%	14%	0%	0%	100%		
評5-	② 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	A	0	1	1	0	0	2	3.5	1
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		B	1	3	3	0	0	7	3.71	1
			14%	43%	43%	0%	0%	100%		
評5-	③ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	A	0	1	1	0	0	2	3.5	1
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		B	0	5	2	0	0	7	3.71	1
			0%	71%	29%	0%	0%	100%		
評5-	④ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	A	0	1	1	0	0	2	3.5	1
			0%	50%	50%	0%	0%	100%		
		B	0	4	3	0	0	7	3.57	1
			0%	57%	43%	0%	0%	100%		
評5-	⑤ 総じて機構の選択的評価事項に係る評価を経験できてよかった		3	3	1	0	0	7	4.29	1
			43%	43%	14%	0%	0%	100%		

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】 （大学）

②選択的評価事項に係る評価を受けた理由について

- ・ 本学について、幅広く評価をいただくため。
- ・ 本評価を受けることにより、第三者による研究活動の評価が実施できると考えたため。
- ・ 本学は「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を標榜し、本法人の中期目標・中期計画において地域貢献活動を積極的に推進することとしている。そのため、地域貢献活動の実施状況に関する第三者評価を得ることは、本学に対する県民等からの理解と信頼の増進に繋がると考えたため。
- ・ 公立大学としての本学の、個性と特色の発揮に有益と考えたため。
- ・ 多彩な活動を行ってきているので、その点検、評価が必要と判断した。

③現在の選択的評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択的評価事項について

- ・ 貴機構が既に平成25年度からの実施を予定しておられる選択的評価事項C「教育の国際化の状況」について、大学教育においてもグローバル化に向けた対応が強く求められていることから、望ましい設定であると考えます。

1. 選択的評価事項及び観点について

○選択的評価事項及び観点についての意見、感想など

- ・ 「正規課程の学生以外に対する教育サービス」をどの範囲で捉えるべきかについて、若干の戸惑いがあったが、公表されている他大学の自己評価書を参考にした。
- ・ 選択的評価事項Bについては、平成24年度実施分から「地域貢献活動の状況」へと名称変更されている。前項の観点から、妥当な変更と考える。

2. 評価の方法及び内容について

（1）自己評価について

○自己評価についての意見、感想など

- ・ 自己評価書の作成にあたって、教職員が相互に協力して行ったことで、大学全体や研究等についてより幅広く把握することが出来た。
- ・ 自己評価書の作成にあたって、関係事業数が多かったことから、文字数の制限が厳しいと感じた。
- ・ 前述のとおり、「正規課程の学生以外に対する教育サービス」としての対象事業の峻別にやや戸惑いがあった。

5. 評価結果（評価報告書）について

○評価結果（評価報告書）についての意見、感想など

- ・ 関係事業全般について、適切な評価が与えられ、分かりやすい文章でまとめられている。

【対象校】

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

○自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

- ・ 効果・影響に関する調査の項目の中には現時点で判断できないものがあり、半年から1年後に実施した方がよいと思われる。

7. 評価結果の活用について

①今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（評価事項A）

- ・【課題】（更なる向上が期待される点）科学研究費補助金の申請件数や獲得件数は増加傾向にあるが、申請率の更なる向上が期待される。

【変更・改善】 年度計画で科学研究費補助金の申請率の現状について原因分析を行い、適切な対応を図ることとした。【4】

（評価事項B）

- ・【課題】 高大連携事業に係る公開講座（授業）について、受講者対象の事後評価が統一的行われていなかった。

【変更・改善】 統一様式によるアンケート調査を平成23年度から実施した。【3】

- ・【課題】 生涯学習ニーズ対応の公開講座について、受講者対象の事後評価方法がキャンパスごとに異なっていた。

【変更・改善】 統一様式による調査に速やかに移行することを目指し、調査項目・選択肢の設定等に関する調整を行っている。【3】

8. その他

○選択的評価事項に係る評価についての意見、感想など

- ・ 大学全体とともに各教員の研究活動活性化に結びつくような項目があるとよいと思われる。

【対象校】

選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
（大学）

② 設けることが望ましい選択的評価事項について

- ・ 領域別評価。
- ・ 学生の国際交流等、グローバル化への対応。
- ・ 観点3-3-①、観点5-1-②において、教員の教育内容への研究活動の反映が問われているが、機構側に「国公立大学では、教員がしっかりした研究活動を行っていることは自明なので、調査・点検すること自体が本来は不要である」という姿勢があり、われわれ専門委員に対して口頭でもそういう趣旨の指導がなされている。これは、本設問④にあるように、評価基準及び観点の構成や内容が教育活動を中心として設定され、研究活動が選択的評価事項Aにおいてなされてきたことと無関係ではないが、こうした教育と研究とを分離する考え方は本来はあってはならないはずのものである。第二サイクルでは、観点3-3-①、観点5-1-②の扱い方について、本格的に検討していただきたい。特に機構の研究パートに配置されている教員は、こうした問題こそ検討すべきであるのに、大半のメンバーは認証評価の実務とも関わっている気配はなく、非常に遺憾に思う。第一サイクルにおける基準1から11と選択的評価事項A・Bとの分離は、既に公表された第二サイクルにおいても基本的に継承されているが、前頁においてもすでに言及したように、初等中等教育と異なり、教育と研究との緊密な連関を前提としている高等教育において、教育と研究（旧選択的評価事項A）との分離は原理的にあってはならないことである。
- ・ 教育と地域貢献等（旧選択的評価事項B）との分離も安易であり、1990年代における北米（アメリカ合衆国・カナダ）の高等教育の現状、平成23年度の東日本大震災以後の国公立大学におけるボランティア活動の積極的展開及びその教育効果等に照らしてもすでに時代遅れであると感じざるを得ない。
- ・ 選択的評価事項Aについてのペーパーレフェリーの評価結果通知（今年は小生は選択的評価事項Aがなかったが）が遅れがちになるように感じている。
- ・ S、A、Bのほかに、中間的な評価がほしい。とくにSとAの中間に。応募してきた以上Bは難しく、特に優れたものをSとすると、Aのなかにも努力の状態でも2つに分けていいのでは。
- ・ 分野別の研究・教育活動の状況。

1. 選択的評価事項及び観点について

④ 対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切でなかった点について

- ・ 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」という設定そのものに限界。
社会貢献や地域貢献が大学の第三の責務である以上、この枠外の活動も選択的評価事項Bに大胆に加えるべきであろう。教育に限定されないボランティア活動、正規の課程での社会人教育等は範疇に入りにくい。

【評価担当者】

○ 選択的評価事項及び観点についての意見、感想など

- ・ 評価を社会貢献として、対象を大きく拡大すべき。東日本大震災での教職員、学生の活躍は目覚ましいものがある。これを「正規の課程以外の教育」などと行政的センスで枠をはめること自体が、「社会貢献」活動へのモチベーションを落としていることになる。

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

○ 自己評価書の様式についての意見、感想など

- ・ 一般教職員や学生が大学の方針や予算に縛られず、地域住民の中に入って行って地域活動を行っているケースが公立大学にはたくさんある。こうした事例を大学が把握している訳ではなく、それが書面に反映されていない。あくまで、上から目線の「地域貢献」で、住民目線ではだいぶ評価が違うのでないか。文部科学省や自治体発想の地域貢献と住民のニーズに依拠した地域貢献では大きな断層がある。この辺を評価でどのように位置づけるかが課題である。

(2) 書面調査について

② 書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 研究者データベース。

(3) 訪問調査について

○ 訪問調査についての意見、感想など

- ・ 現場の教員へのヒアリングで個人ベースの活動がでてきた。この辺は重視すべき。

3. 研修について

○ 研修についての意見、感想など

- ・ 社会貢献の実態について機構は十分に把握していないことがよくわかった。学校教育法の改正で大学の第3の責務と位置付けられながら、十分な研究がなされていないのではないか。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

○ 評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間についての意見、感想など

- ・ 評価項目が貧弱である。

【評価担当者】

対 象 校

(大 学 用)

平成23年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を受けた対象校のみお答えください。

- ① 今回、受けた選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

- ② 選択的評価事項に係る評価を受けた理由をご記入ください

--

- ③ 現在の選択的評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択的評価事項があった -----

あった	なかった	
2	1	

→※③について、2とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択的評価事項についてご記入ください。

--

1. 選択的評価事項及び観点について

当機構が設定した選択的評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)		
① 選択的評価事項を設けたことは適切であった -----	5	4	3	2 1	
② 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----	A	5	4	3 2 1	
	B	5	4	3 2 1	
③ 貴校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----	A	5	4	3 2 1	
	B	5	4	3 2 1	
④ 評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進する ために適切であった -----	A	5	4	3 2 1	
	B	5	4	3 2 1	

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から 理解と支持を得るために適切であった -----	A	5	4	3 2 1	
	B	5	4	3 2 1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑥ 自己評価しにくい評価事項又は観点があった -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

→※⑥について、2とご回答いただいた場合、どの評価事項又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

--

⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点が -----

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、追加すべき評価事項及び観点についてご記入ください。

--

・ 選択的評価事項及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価について

	迷った	迷っていない	
A	2	1	
B	2	1	

- ① 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※①について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

- ・自己評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

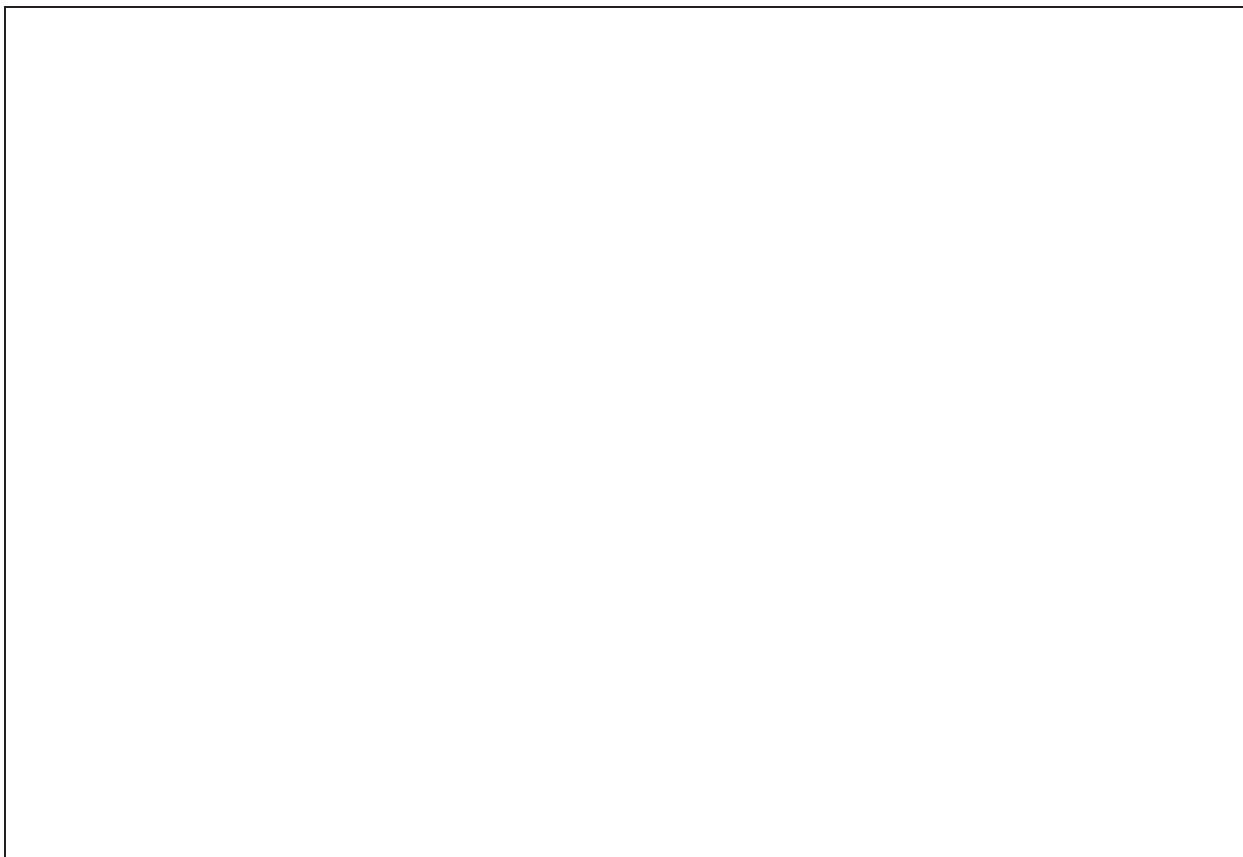
② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

・ 訪問調査等についてご意見、ご感想などをご記入ください。



(3)意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、意見の申立ての実施方法等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・意見の申立てについてご意見、ご感想などをご記入ください。

3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択的評価事項に係る評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

--

4. 説明会・研修会等について

選択的評価事項に係る評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、説明会・研修会等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

③ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

④ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑤ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑥ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑦ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が分かりにくかったかをご記入ください。

⑧ 評価結果において、達成状況等を4段階の判断で示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 貴校の教育研究活動等の改善を促進した

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・選択的評価事項に係る評価について自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 貴校の教育研究活動等の改善を促進する

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

② 貴校の学生や社会からの理解と支持が得られる

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・機構の選択的評価事項に係る評価結果による効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

7. 評価結果の活用について

- ① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

非常に 参考に あまり参考に
参考になった ← なった → ならなかった
(5) (3) (1)

課題	(記入例) 【評価事項 A】研究活動を実施するために必要な体制の整備を加速させる必要がある。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	各キャンパスの研究活動の現状を調査・検証し、体制の基盤づくりをしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

- ② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1	貴校の広報誌に評価結果を掲載する。	2	貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3	資金獲得のための申請書に記載する。	4	学生募集の際に用いる。
5	共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。		
6	その他（具体的に） ()		

回答欄

8. その他

- ・ 選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

評価担当者
(大 学 用)

平成23年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を担当された方のみお答えください。

① 今回、評価を担当された選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

② 現在の選択的評価事項A、Bの他に、設けることが望ましい選択的評価事項があった -----

あった	なかった	
2	1	

→※②について、2 とご回答いただいた場合、設けることが望ましい選択的評価事項についてご記入ください。

1. 選択的評価事項及び観点について

当機構が設定した選択的評価事項及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 選択的評価事項を設けたことは適切であった -----	5	4	3	2	1		
② 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
③ 対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった ----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	
④ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進す ために適切であった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 評価事項及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会か ら理解と支持を得るために適切であった -----	A	5	4	3	2	1	
	B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

⑥ 評価しにくい評価事項又は観点があつた -----

→※⑥について、2とご回答いただいた場合、どの評価事項又は観点が評価しにくかつたかをご記入ください。

	ある	ない	
A	2	1	
B	2	1	

⑦ 現行のものに加え、追加すべき評価事項及び観点があつた -----

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、追加すべき評価事項及び観点についてご記入ください。

- ・ 選択的評価事項及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（1）自己評価書、（2）書面調査、（3）訪問調査、（4）評価結果の4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（1）自己評価書について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想などをご記入ください(特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点などがあればお聞かせください)。

(2) 書面調査について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・ 書面調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・ 訪問調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想などをご記入ください。

3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、研修は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・研修についてご意見、ご感想などをご記入ください。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業量、スケジュール等について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 総じて、評価の作業量、スケジュール等は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・選択的評価事項に係る評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

--

5. 評価全般について

選択的評価事項に係る評価を行ったことによる効果・影響など、評価全般について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ---

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

② 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

③ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

④ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑤ 総じて機構の選択的評価事項に係る評価を経験できてよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 選択的評価事項に係る評価全般（選択的評価事項に係る評価に携わっていただいていたことも含め）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。